

書窓

Shoso

No.448

2022.9

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鰯

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

子どもの本だな 106

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

つきのぼうや

イブ・スパンク・オルセン さく・え
やまのうち きよこ やく (福音館書店)

ある夜、お月さまがふと下を見ると、池の中にもう1人お月さまがいるではありませんか。友だちになりたいと思ったお月さまは、月のぼうやに池の中のお月さまをつれてきてくれたのみました。

月のぼうやはかごをさげて元気よく空をかけおりました。星を蹴飛ばし雲のなかを抜け、飛行機のそばを通りました。おりていきながら、丸いものに会いましたが、どれもお月さまではありません。丘からふもと、船着き場、そして水の中へ飛び込みました。水の底で月のぼうやは手鏡を拾いました。鏡をのぞいたぼうやは、「なんてかわいらしいおつきさまだ!」と、鏡をもってお月さまのもとに帰ります。

お月さまも鏡のなかの友だちに満足するユーモラスな絵本です。水色を背景にオレンジと黄色を効かせた縦長の画面で、月のぼうやが下へとおりにいく様子が効果的に表現されています。読んでもらえば4歳から楽しめます。

(竹内)

ムギと王さま

エリナー・ファージョン 作 石井 桃子 訳 (岩波書店)

10歳のグリゼルダは110歳のひいばあちゃんと仲良く一緒に住んでいました。毎晩グリゼルダは、家に代々伝わる歌をばあちゃんに歌ってあげます。「ねんねこはおどる、ねんねんねん!」ところが、グリゼルダは病気で入院し、ひいばあちゃんは養老院に入れられてしまいました。退院後、グリゼルダは大家の地主さんに子守りとして引き取られ、家は売りに出されました。ある日、地主の家を訪れた大学の先生は、子守りをするグリゼルダの歌に驚き、歌について知りたがりました。そして、ひいばあちゃんが持っている歌の本がとても高価で貴重なものなので、ぜひ売ってほしいと申し出ました。グリゼルダはこのお金で家を買戻し、またひいばあちゃんと一緒に暮らし始めました。(「ねんねこはおどる」)

このほかにも、木こりの息子が子犬のお陰で王女さまと結婚する「レモン色の子犬」、小さな娘が偏屈な父を良い人に変えてしまう「しんせつな地主さん」など、著者の豊かな感性で紡がれたお話が27編入っています。温もりのあるペン画の挿絵は、美しく不思議な雰囲気をよく伝え、お話を一層引き立てます。

10歳くらいから大人まで。

(池之上)

9月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

<特別整理期間(曝書)のお知らせ>

下記の期間、特別館内整理期間等のため休館します。

9月26日(月)~10月4日(火)

〔9/26(月)は祝日の振替休館、9/27(火)10/4(火)は定例の休館〕

※休館中は返却ポストをご利用ください。

■曝書前の本の貸出について■

9/12(月)~9/25(日)の2週間、貸出の期間と冊数を変更します。

・貸出期間：3週間

・貸出冊数：

▶ 町内在住・在勤・在学の方は20冊

▶ 広域利用の方は10冊

▶ ×印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。

(9/21、9/26、10/12 は祝日の振替、9/28~10/3 は特別館内整理)

▶ 開館時間は10:00~18:00、金曜日は20:00まで開館

『 夕暮れに夜明けの歌を 文学を探しにロシアに行く 』 奈倉 有里 著

イースト・プレス 269頁 2021年10月刊 1,800円 (請求記号)302.3

本書は、2002年の冬、20歳になったばかりの著者が、単身ロシアに留学し、大学卒業までの6年間をつづったロシア滞在記である。

ペテルブルグの語学学校で出会ったエレナ先生には、ロシア語で詩を読む喜びを教わった。ブロークという詩人の作品に魅了され、後にこの詩人について卒業論文や博士論文を書くことになるのだが、本書の書名「夕暮れに夜明けの歌を」は、ブロークの詩からとられている。エレナ先生のすすめで、モスクワのゴリキー文学大学に入学、そこで人生の師ともいえるアントノフ先生に出会った。「文学研究入門」の授業は、教科書を使わず、ただただ先生の「演技のような」講義が行われる。先生の言葉を「絶対に聞き逃したくない。ひとつでも先生の声が聴こえ、何度でも授業が受けられるのだ。」

「詩の形式論」の授業では、ブロークの「かの女」という詩を繰り返し聞きたくなる理由が、音節やリズムの特徴から説明された。それを聞いたとき「体に電流が走ったような衝撃を受けた」という。2人の先生の他にも、著者とペアで「勉強ばかりしている2人の女子学生」と呼ばれた同室のマーシヤ、「真実が書きたい」とつぶやいた創作科のオーリヤなど、ロシア滞在中に著者が出会ったたくさんの人々が、光と陰の両面を含んで印象的に描かれている。

著者は言葉の響きに敏感で、その感性はときに痛みを感じるほど鋭いが、その文章はユーモアに富み、読みやすい。「あとがきに代えて」で、不穏な社会情勢やそれに巻き込まれる人々、身近な友人に対しても、自分は無力でなにもできなかったと嘆きながらも、文学と言葉を学び、楽しんでいた時間は無力ではなかったと振り返る。ロシアがウクライナに侵襲して半年の今、両国の文学や芸術に触れること、文学を通して人に出会うことは、この戦争を止める何らかの力になるのではないかと思う。

(池田)

9月	10月	9・10月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
8日	6日	塚森 地域内 10:30~ 10:50	沖代 コミュニティー センター 11:00~ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
15日	13日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
22日	20日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

<お知らせ>
青空リサイクル~ひと箱市~
 読まなくなった本を持ち寄って、古本市を開きます。個人提供なのでどんな本が集まるかお楽しみに!
 ◎開催日: 10月16日(日)
 (※雨天中止)
 ◎時間: 10:00~14:00
 (本がなくなり次第終了)
 ◎場所: 「ふるさと文化村」中庭
 ※本はすべて無料です。
 ※本を出したい方は、事前申込が必要。詳しくは、太子町立図書館まで。または図書館ホームページをご覧ください。

地下水

8月6日に「聖徳太子没後1400年記念」にちなんだ『伝統文化 de あすかイチ』が催された。図書館では聖徳太子に関する本の展示と聖徳太子クイズスタンプラリーをしており、その様子をテレビ局から取材されることになった。慣れないカメラに四苦八苦していると、小学1年のHちゃんが図書館を訪れた。Hちゃんは、レポーターの女性に話しかけ、『ものぐさトミー』や『ペニーさんと動物家族』など、お薦めの絵本を紹介してくれた。子どもながらも本のおもしろさを他の人に伝えようとしているのが嬉しかった。

夏休みになり、たくさん子どもたちが図書館を訪れている。読書感想文の本を探したり工作の本を選んだりと目的は様々ではあるが、せっかくの機会だから本や図書館の楽しさを知ってもらいたい。そう考えて、入口のコーナーに図書館の本を参考にして作った工作を展示してみたり、本を探している子どもに積極的に話しかけて本を紹介したりしてみた。夏休みが終わっても、子どもたちに図書館に通い続けてほしい、そう思いながら子どもたちに紹介できそうな本を読み進めている。

(八木)